

A stylized world map composed of a grid of small dots, rendered in shades of blue and teal, set against a light blue background that transitions to a darker blue at the bottom.

さらなる飛躍へ

2019年3月期 通期決算説明会

2019年5月23日



大陽日酸
The Gas Professionals

目次

- 2019年3月期 通期業績
 - 通期業績概要
 - セグメント別業績

- 2020年3月期 通期業績予想
 - 通期業績予想概要
 - セグメント別業績予想
 - 要約連結キャッシュ・フロー計算書

- 中期経営計画 Ortus Stage 2 進捗状況

- 株主還元

2019年3月期 通期業績

概要



Ortus Stage 2

業績概要

(単位：億円)

	18/3月期 通期実績 利益率	19/3月期 通期実績 利益率	前期比 増減率	19/3月期 通期公表値 (2/5発表) 利益率
売上収益	6,462	7,403	+941 +14.6%	7,350
コア営業利益	600 9.3%	658 8.9%	+58 +9.6%	665 9.0%
非経常損益	-1	10	+11	5
営業利益	598 9.3%	668 9.0%	+70 +11.7%	670 9.1%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	489 7.6%	412 5.6%	-77 -15.6%	410 5.6%
法人所得税増減額 (特殊要因)	-122 (米国法人税減税)	0	+122	
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (除く法人所得税増減影響)	367	412	+45	

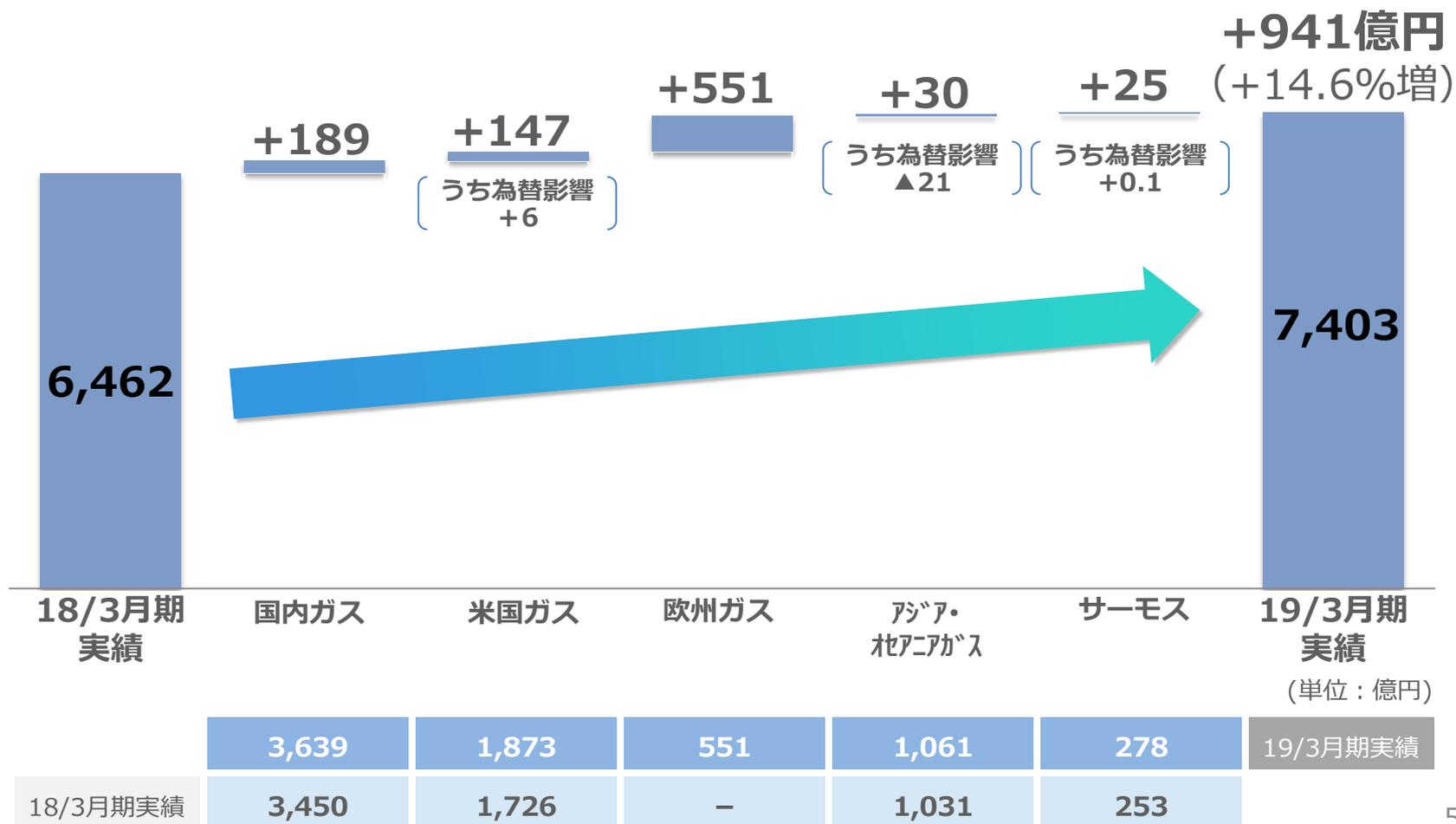
● 為替レート：(USD→円) 前期通期レート 110.70円/USドル 当期通期レート 111.07円/USドル、(EUR→円) 当期通期レート 125.70円/ユーロ
(AUD→円) 前期通期レート 85.78円/豪ドル 当期通期レート 80.77円/豪ドル

● 2019年3月期 通期実績にて、コア営業利益に計上される欧州事業の取得関連費用（アドバイザー費用等）として27億円を計上しております。

● 2018年3月期 通期実績は、米国での税制改革法における連邦法人税率の引き下げにより、米国子会社での繰延税金負債の取崩しが発生し、法人所得税が122億円減少しております。

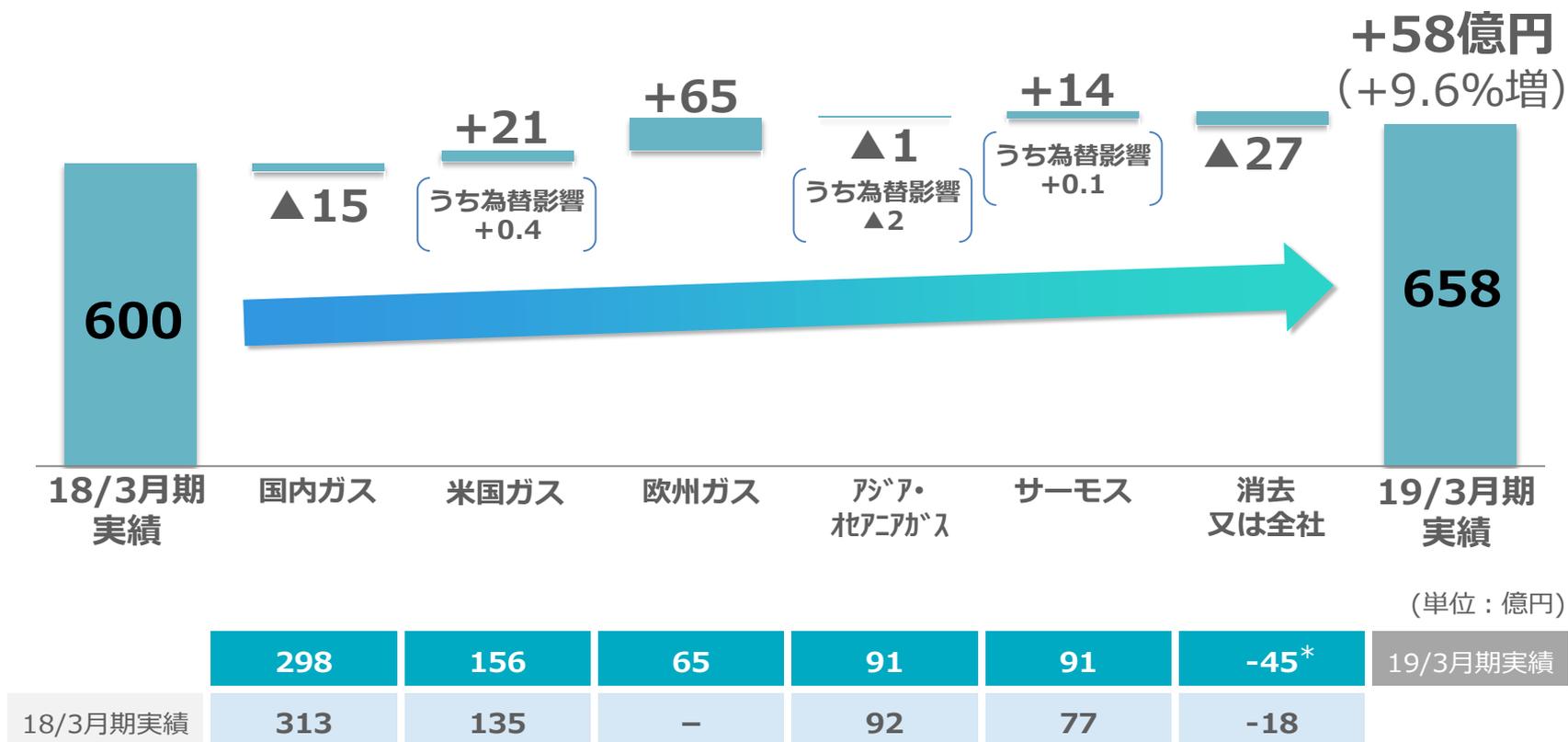
業績概要：売上収益増減要因

- 2018年12月に買収を完了した米Praxairの欧州事業の寄与に加え、国内でのメディカル事業強化を目的としたアイ・エム・アイ社の買収効果などにより、大幅な増収となりました。



業績概要：コア営業利益増減要因

- 米国ガス事業の好調やPraxairの欧州事業を買収したことで大幅な増益となりましたが、国内では電力コストの上昇や炭酸ガスのソース不足の影響を受け減益となりました。



* 2019年3月期 通期実績にて、コア営業利益に計上される欧州事業の取得関連費用（アドバイザー費用等）として27億円を計上しております。

2019年3月期 通期業績

セグメント別業績

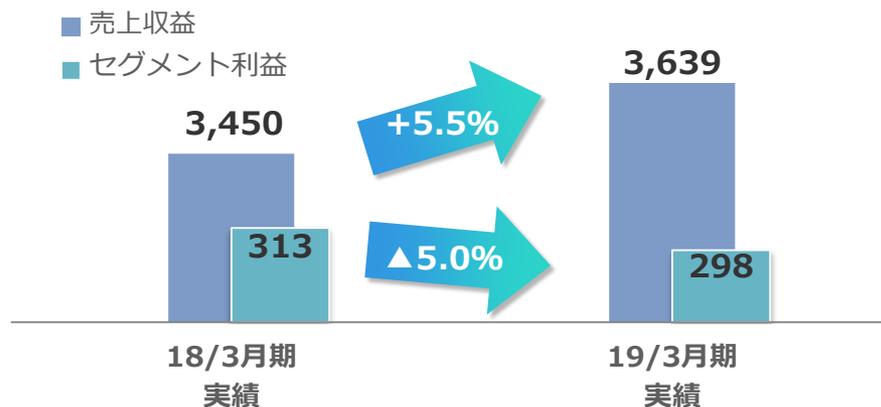
Ortus Stage 2



セグメント別業績：国内ガス事業

業績ハイライト

(単位：億円)	18/3月期 実績	19/3月期 実績	前期比
売上収益	3,450	3,639	+189
セグメント利益 (コア営業利益)	313	298	-15



売上収益・セグメント利益 増減要因（前期比）

増加要因

- JFEサンソセンター倉敷工場開設の通年寄与によりオンサイトで増収
- 金属加工向けレーザー切断機の販売好調によりハードグッズで増収・増益
- 医療機器販売会社アイ・エム・アイ社の買収効果により、増収・増益

減少要因

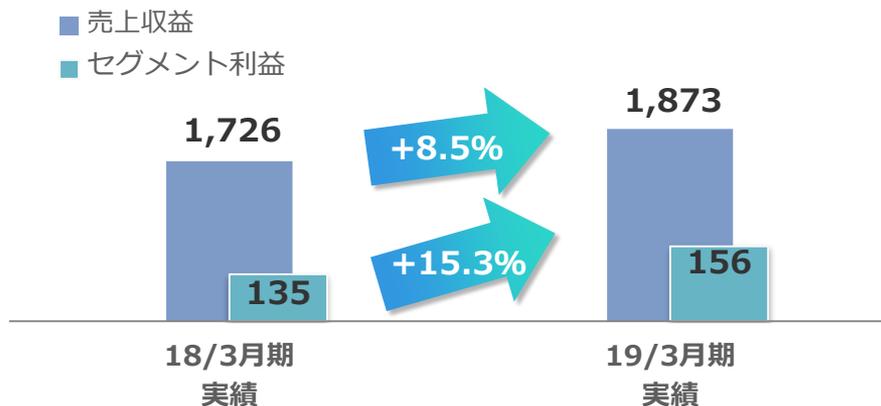
- 燃料価格上昇によりセパレートガスの生産コストが増加し、減益
- 炭酸ガスソース不足によるコスト増加により減益
- 一部製品分野向けに電子材料ガスの出荷が軟調であり、減収・減益

セグメント別業績：米国ガス事業

業績ハイライト

(単位：億円)	18/3月期 実績	19/3月期 実績	前期比
売上収益	1,726	1,873	+147
セグメント利益 (コア営業利益)	135	156	+21

● 為替換算による影響額：売上収益 +6億円、コア営業利益 +0.4億円



売上収益・セグメント利益 増減要因（前期比）

増加要因

- 米国内製造業（鉄鋼・建設・エネルギー）の稼働は順調であり、バルク・ハードグッズで増収・増益
- 化学メーカー向け等の新規案件の稼働が開始したことにより、オンサイトで増収・増益
- 独Lindeから買収したHyCO事業の貢献により増収・増益

減少要因

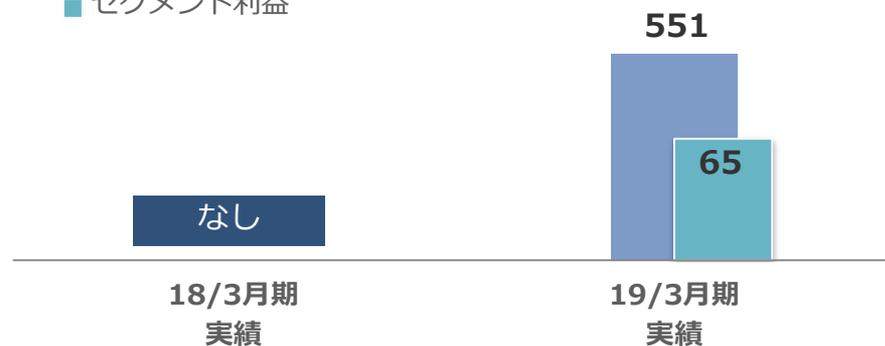
- 特になし

セグメント別業績：欧州ガス事業

業績ハイライト

(単位：億円)	18/3月期 実績	19/3月期 実績	前期比
売上収益	—	551	+551
セグメント利益 (コア営業利益)	—	65	+65

■ 売上収益
■ セグメント利益



- ・ 2019年3月期 通期実績は、米国 Praxair, Inc.より取得しました欧州事業の2018年12月から2019年3月までの4ヶ月の業績です。

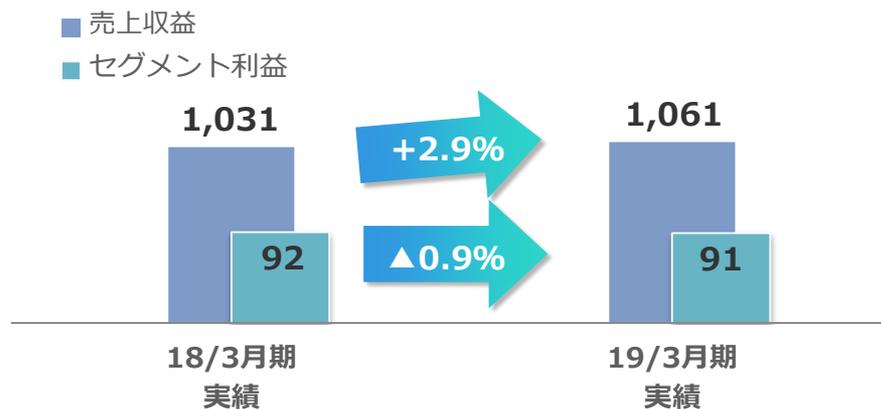
※ 2019年3月期で一時的に発生した費用：
 パーチェス・プライス・アロケーション（取得価額の配分）に基づき、在庫資産の時価評価による売上原価の増加として、7億円を計上しております。

※ 2019年3月期以降も継続して発生する費用：
 パーチェス・プライス・アロケーション（取得価額の配分）に基づき、有形固定資産及び無形資産の減価償却費及び償却費の増加として、32億円（2018年12月～2019年3月までの4ヶ月間）の費用を計上しております。

セグメント別業績：アジア・オセアニアガス事業

業績ハイライト

(単位：億円)	18/3月期 実績	19/3月期 実績	前期比
売上収益	1,031	1,061	+30
セグメント利益 (コア営業利益)	92	91	-1



● 為替換算による影響額：売上収益 ▲21億円、コア営業利益 ▲2億円

売上収益・セグメント利益 増減要因（前期比）

増加要因

- 中国での産業ガス事業は堅調であり、増収・増益
- ベトナム・フィリピンではバルクガスを中心に出荷は好調であり増収・増益。シンガポールも業績は回復
- 豪州では、LPガス及び関連機器の販売は好調であり、増収
- 台湾での会計処理変更の影響による減収はあるが、東アジアでの電子材料ガスの出荷は好調であり、増収・増益。

減少要因

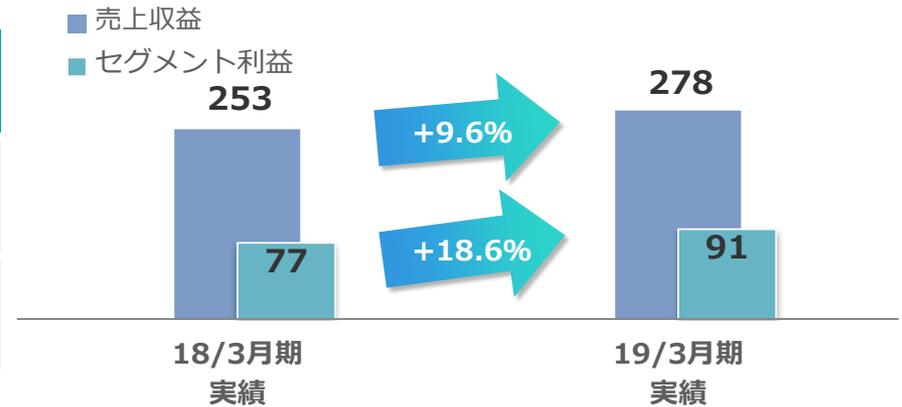
- 豪州では、LPガスの仕入価格は上昇したが、販売価格への転嫁が進まず、減益
- シンガポールでは▲13億円 減損処理*が発生し、減益

*インドネシアで進めている天然ガス液化事業（発電用天然ガスを液化・輸送する役務提供する事業）において、原燃料を取り巻く市場環境が大きく変化し、将来の収益性が低下したため、当該事業に関連する資産を減損処理いたしました。

セグメント別業績：サーモス事業

業績ハイライト

(単位：億円)	18/3月期 実績	19/3月期 実績	前期比
売上収益	253	278	+25
セグメント利益 (コア営業利益)	77	91	+14



● 為替換算による影響額：売上収益 +0.1億円、コア営業利益 +0.1億円

売上収益・セグメント利益 増減要因（前期比）

増加要因

- 国内では、スポーツボトルを中心に販売は好調であり、増収・増益。フライパンの発売効果も貢献
- 韓国では、販売チャネルの強化により販売が好調であり、増収・増益
- フィリピン・マレーシアの生産工場での稼働は順調であり、増収・増益
- 中国関連を中心に、海外の持分法適用会社で増益

減少要因

- インバウンド需要の収縮

2020年3月期 通期業績予想

概要



Ortus Stage 2

通期業績予想

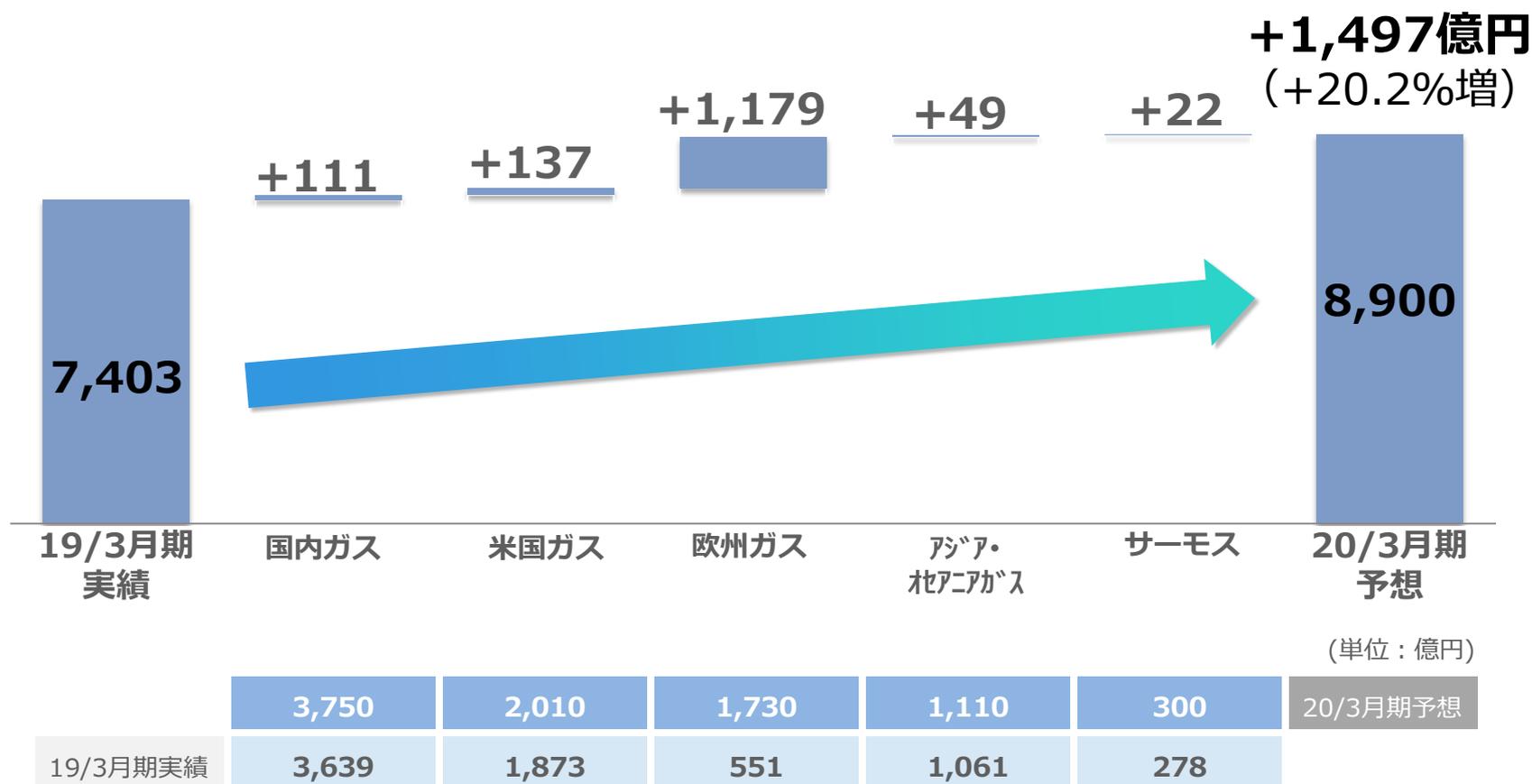
(単位：億円)

	19/3月期 通期実績 利益率	20/3月期 通期予想 利益率	前期比 増減率
売上収益	7,403	8,900	+1,497 +20.2%
コア営業利益	658 8.9%	950 10.7%	+292 +44.3%
非経常損益	10	70	+60
営業利益	668 9.0%	1,020 11.5%	+352 +52.6%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	412 5.6%	570 6.4%	+158 +38.0%

- 2020年3月期 想定為替レート：(USD→円) 110円/USドル、(EUR→円) 125円/ユーロ
- 2020年3月期では、資産効率改善の一環として保有資産の売却を行い、非経常損益で70億円を計上する予定です。

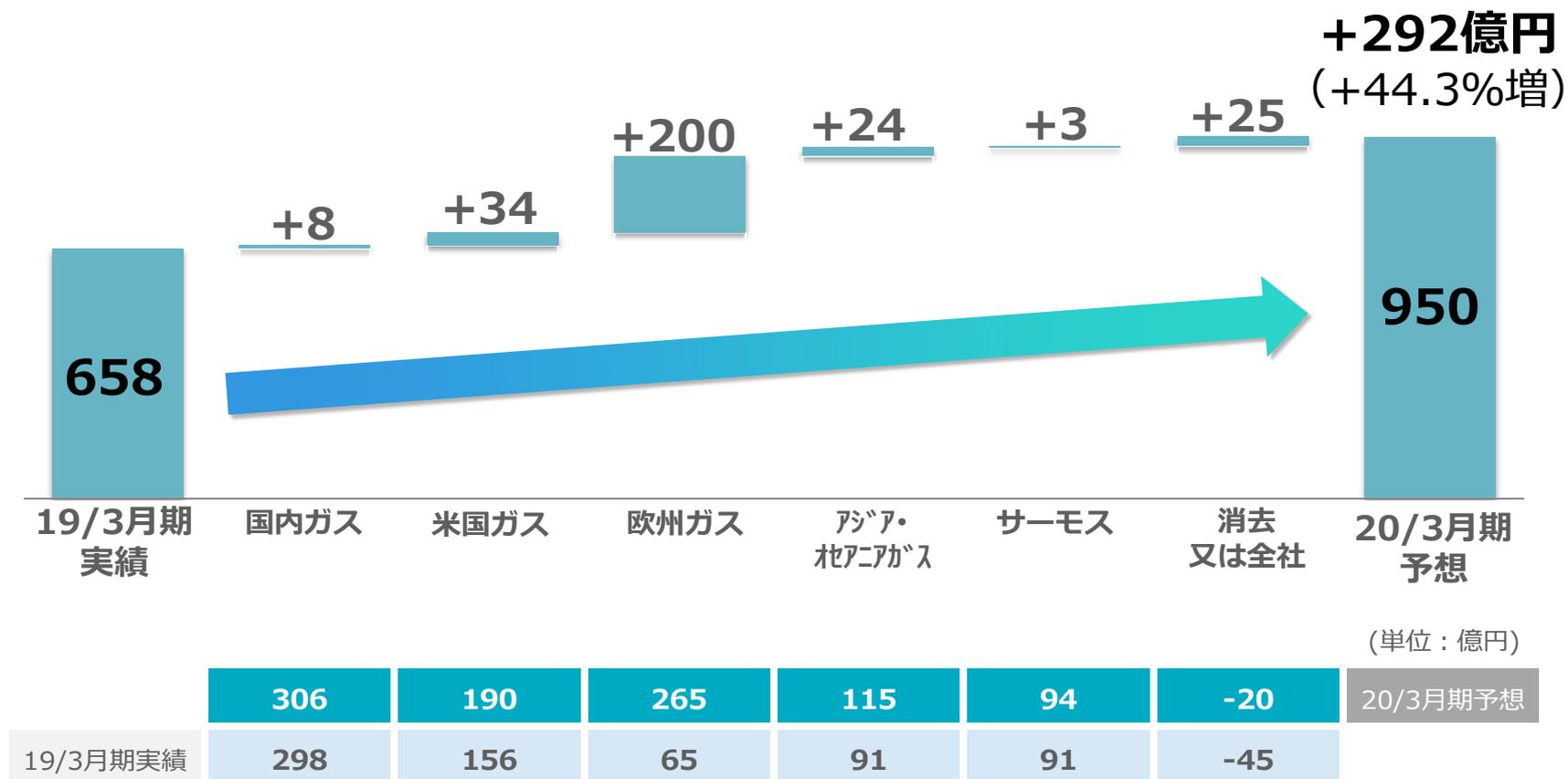
通期業績予想：売上収益増減要因

- 2018年12月に取得した欧州ガス事業が通年で寄与することに加えて、米国で順次稼働が始まるオンサイト案件、及び2019年2月にLindeから取得したHyCO事業の貢献も含め、大幅な増収を計画しています。



通期業績予想：コア営業利益増減要因

- 国内では、炭酸ガス事業の収益性の改善を図ります。米国ガス事業、欧州ガス事業での増収による増益に加え、東アジア・東南アジアでの経済成長を取り込みます。



2020年3月期 通期業績予想

セグメント別業績

Ortus Stage 2



セグメント別業績予想：国内ガス事業

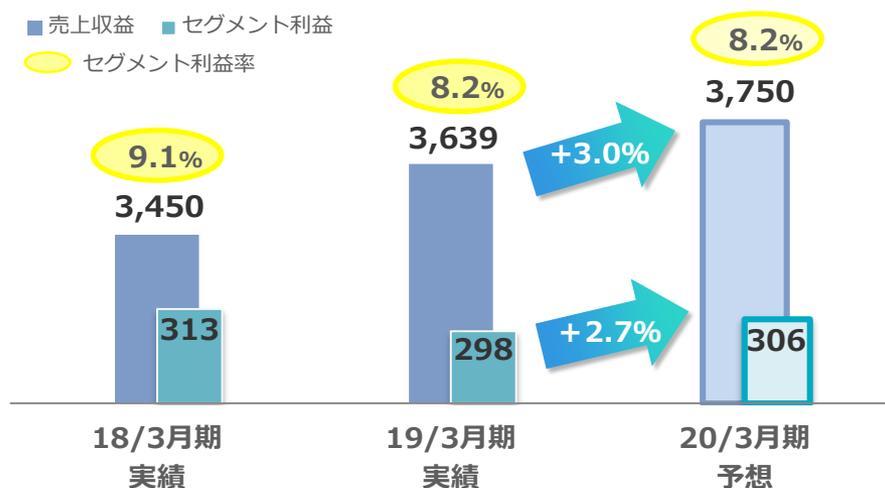
事業環境 認識

- 米中貿易摩擦や消費税アップ等の影響による不透明感はあるものの、国内製造業の品質、生産性の向上、省力化投資は堅調を見込む
- 国内エレクトロニクス産業は在庫調整局面にあるが、下期から回復基調を見込む
- 前期に続き、燃料価格の上昇によりガス生産コストは増加する見通し

(単位：億円)

■ 売上収益 ■ セグメント利益

○ セグメント利益率



今期計画達成に向けた取り組み

● 産業ガス

- ・「Total TNSC」のコンセプトの下、グループ事業基盤を結集して、ガス及びその周辺事業を引き続き拡大
- ・セパレートガスの価格改定への取り組み



● エレクトロニクス

- ・重要顧客への深耕を進め、取引を拡大
- ・新製品（精製装置等）を通じて、市場環境に応じた拡販促進

● メディカル

- ・グループ内連携による医療機器ビジネスの拡大

● 生産・物流コスト削減の取り組み

- ・高効率プラントからの出荷比率向上によるコスト削減を推進
- ・情報通信技術の活用によるロジスティクスの合理化

セグメント別業績予想：米国ガス事業

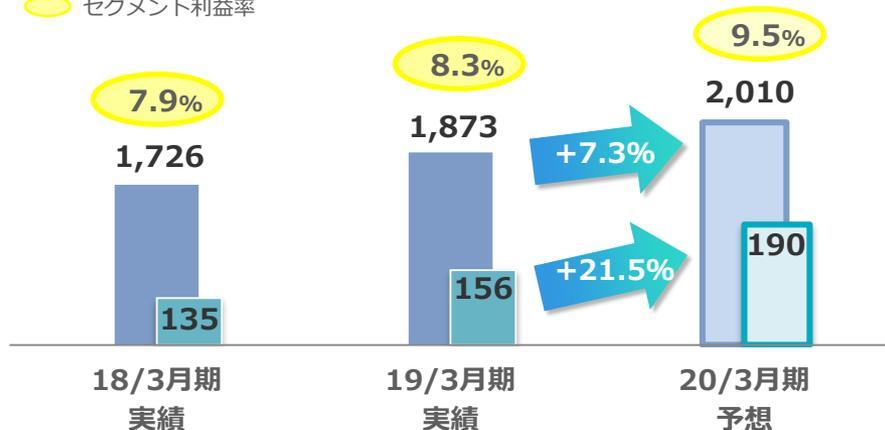
事業環境 認識

- 米国の経済は引き続き堅調と見込む
- 経済政策によるインフラ投資が進むことを期待する

(単位：億円)

■ 売上収益 ■ セグメント利益

○ セグメント利益率



今期計画達成に向けた取り組み

● 産業ガス

- ・ 新規オンサイト案件の安定稼働と併産される競争力の高いバルク製品拡販を通じて、収益を拡大
- ・ 食品加工や冷蔵保管で需要の増加が期待される炭酸ガスの拡販促進（生産能力増強を活用）
- ・ 経済成長による需要増（バルク・ハードグッズ・パッケージガス）の確実な取り込み
- ・ Linde社から取得したHyCO事業をMathesonへ円滑に移管

● エレクトロニクス

- ・ Total Electronics体制のもと、戦略顧客への深耕促進



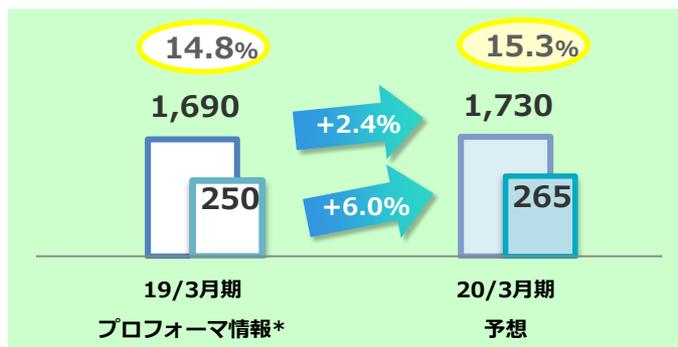
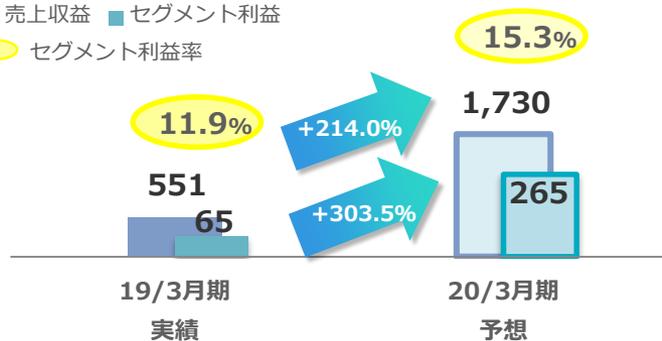
セグメント別業績予想：欧州ガス事業

事業環境 認識

- ドイツのGDP成長率予測が引き下げられるなど、全般的には欧州経済に減速感が出ているものの、事業展開する地域やユーザーによっては、堅調な需要に加え、新たな需要拡大が見込める

(単位：億円)

■ 売上収益 ■ セグメント利益
○ セグメント利益率



今期計画達成に向けた取り組み

- 産業ガス
 - ・スペイン・ドイツ・ベネルクスでのオンサイト、バルク、パッケージガスの拡大需要の取り込み
 - ・イタリアでの冷媒ガス事業の拡大を推進
 - ・電力費・人件費上昇分の販売価格への転嫁を推進
 - ・炭酸ガスの拡大需要の取り込み
- 買収シナジーの創出
 - ・エレクトロニクス事業、ガスアプリケーションの展開や他地域で取引関係にある既存顧客への深耕を通じて、グループ間でのシナジーを追及



*Praxairから買収した欧州事業の取得日が2018年4月1日だったと仮定した場合の2018年4月1日から2019年3月31日の欧州ガス事業の業績です。なお、コア営業利益は、2020年3月期との比較を考慮し、PPAによる在庫資産に係る原価増 7億円は除外する一方、PPAによる減価償却費及び償却費の増加は、年換算額の95億円としております。

セグメント別業績予想：アジア・オセアニアガス事業

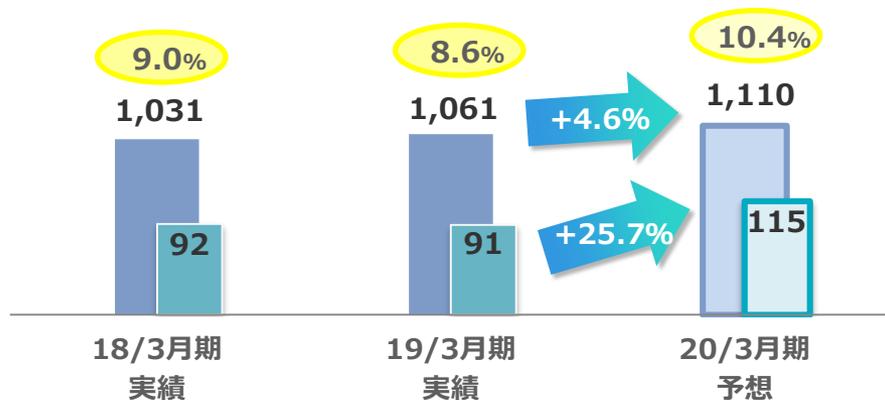
事業環境 認識

- 東アジア（中国・台湾・韓国）：半導体産業では、年内は生産調整が続くと見込む
- 東南アジア：ASEAN諸国でのインフラ投資や外資企業の誘致は継続され、経済は堅調に推移すると見込む
- 豪州：建設・食品・エネルギーなどの主要産業は堅調と見込む

(単位：億円)

■ 売上収益 ■ セグメント利益

○ セグメント利益率



今期計画達成に向けた取り組み

● 産業ガス

- ・ 中国：生産が堅調な化学向けバルク需要の取り込み
- ・ ベトナム：新規オンサイト稼働開始による事業拡大
- ・ フィリピン：電子部品産業向けを中心に収益拡大
- ・ 豪州：窒素ガス（エネルギー産業）、炭酸ガス（食品）需要のさらなる獲得

● エレクトロニクス

- ・ 戦略顧客へのグループ統一戦略（需要・品質・コスト）の推進による既存顧客への深耕推進



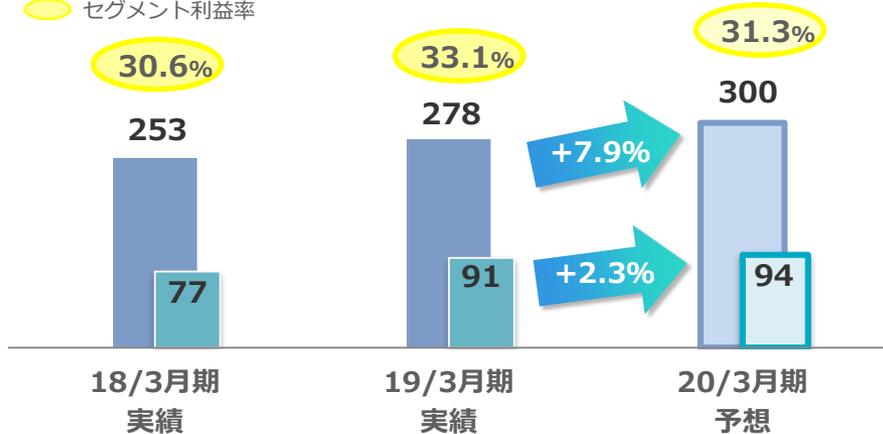
セグメント別業績予想：サーモス事業

事業環境 認識

- 国内：インバウンド需要の伸びは期待できない
- 海外：中国の内需は軟調、北米では競合が進むと見込む

(単位：億円)

■ 売上収益 ■ セグメント利益
○ セグメント利益率



今期計画達成に向けた取り組み

- 国内
 - ・ Kitchenware（調理用品）の製品ラインナップの拡充
 - ・ Home（卓上用品）の新製品の投入
 - ・ 直営店舗数の拡大、自社ECサイトの活用を通じて、ロイヤルカスタマーの獲得を図る
- 海外
 - ・ 韓国：新規チャネルの拡大、キッズ向け製品、ランチジャーの拡販に取り組む
 - ・ 東南アジア：販路拡大の推進
- 生産体制
 - ・ フィリピン、マレーシア、中国の生産工場の安定稼働により販売機会の逸失を防ぐ

2020年3月期 通期業績予想

要約連結キャッシュ・フロー計算書

Ortus Stage 2



要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	19/3月期 通期実績	20/3月期 通期予想	前期比
税引前利益	620	865	+245
減価償却費・償却費	561	830	+269
運転資金増減	-24	-35	-11
その他	-170	-355	-185
営業活動によるキャッシュ・フロー	986	1,305	+319
設備投資	-741	-1,034	-293
投融資	-6,911	-	+6,911
その他（資産売却等）	103	80	-23
投資活動によるキャッシュ・フロー	-7,549	-954	+6,595
フリー・キャッシュ・フロー	-6,562	351	+6,913
純有利子負債	9,411	9,181	-230
調整後ネットD/Eレシオ	1.54	1.38	-0.16 pt.

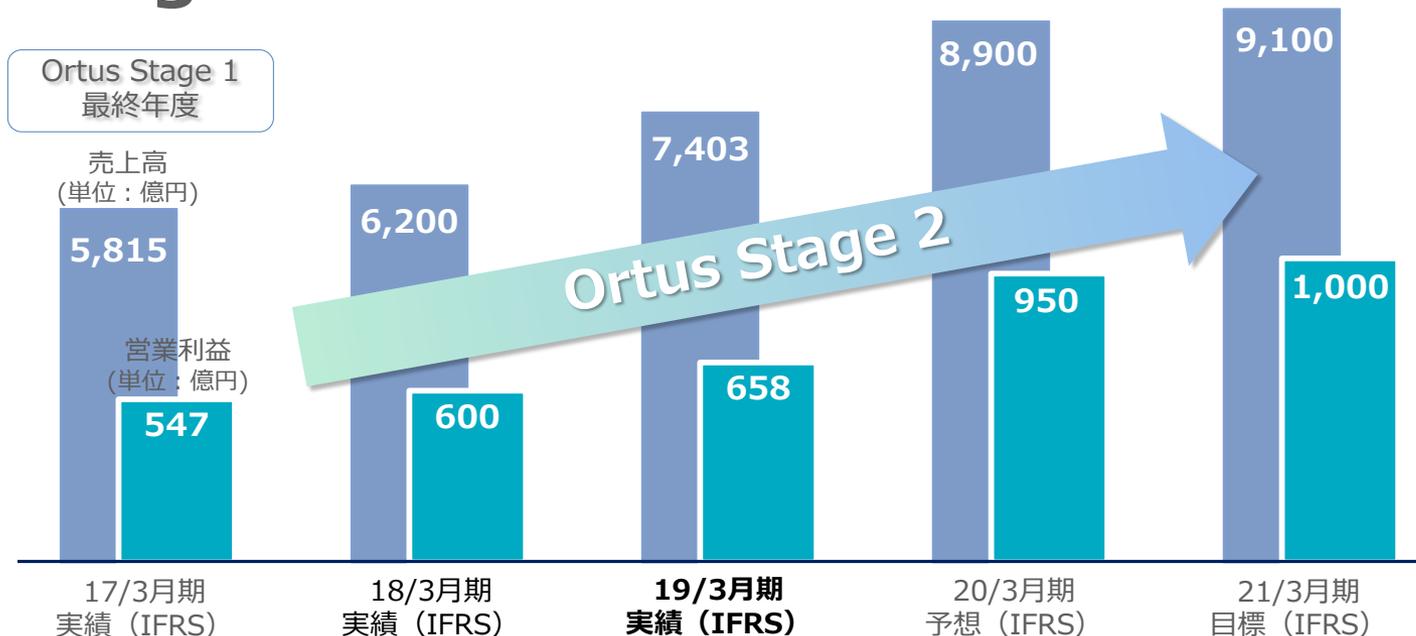
- 純有利子負債：有利子負債 - 現金及び現金同等物*
*IFRSでは、預入期間が3ヶ月を超える定期預金は「現金及び現金同等物」に含まれませんが、当社より開示しております「純有利子負債」では同項目を考慮して算定しております。
- 調整後ネットD/Eレシオ：（純有利子負債 - 資本性負債） / （親会社の所有者に帰属する持分 + 資本性負債）
- 資本性負債：ハイブリッドファイナンスで調達した負債のうち、格付機関から資本性の認定を受けた額（調達額の50%）
- ハイブリッドファイナンス：負債でありながら、利息の任意繰延、超長期の返済期限、清算手続き及び倒産手続きにおける劣後性等の資本に類似した特徴を有しているファイナンス形態

中期経営計画

Ortus Stage 2 進捗状況



Ortus Stage 2 進捗状況



売上収益	5,815	6,462	7,403	8,900	9,100
コア営業利益	547	600	658	950	1,000
コア営業利益率	9.4%	9.3%	8.9%	10.7%	11.0%
海外売上収益比率	40.8%	43.3%	47.9%	55.0%	55.0%
ROCE ^{※1}	8.4%	8.4%	6.2%	6.6%	7.1%
調整後ネットD/Eレシオ ^{※2}	—	—	1.54倍	1.38倍	1.27倍

※1 ROCE = コア営業利益^{*1} / (有利子負債残高 + 親会社の所有者に帰属する持分)

*1 コア営業利益とは営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目^{*2}）を除いて算出した数値を示す。

*2 非経常項目とは、構造改革費用（事業縮小・撤退、特別退職金）、災害や重大な事故による損失、その他（遊休資産の処理など）が該当する。

※2 調整後ネットD/Eレシオとは、ハイブリッドファイナンスでの格付機関からの資本性認定を考慮したネットD/Eレシオです。

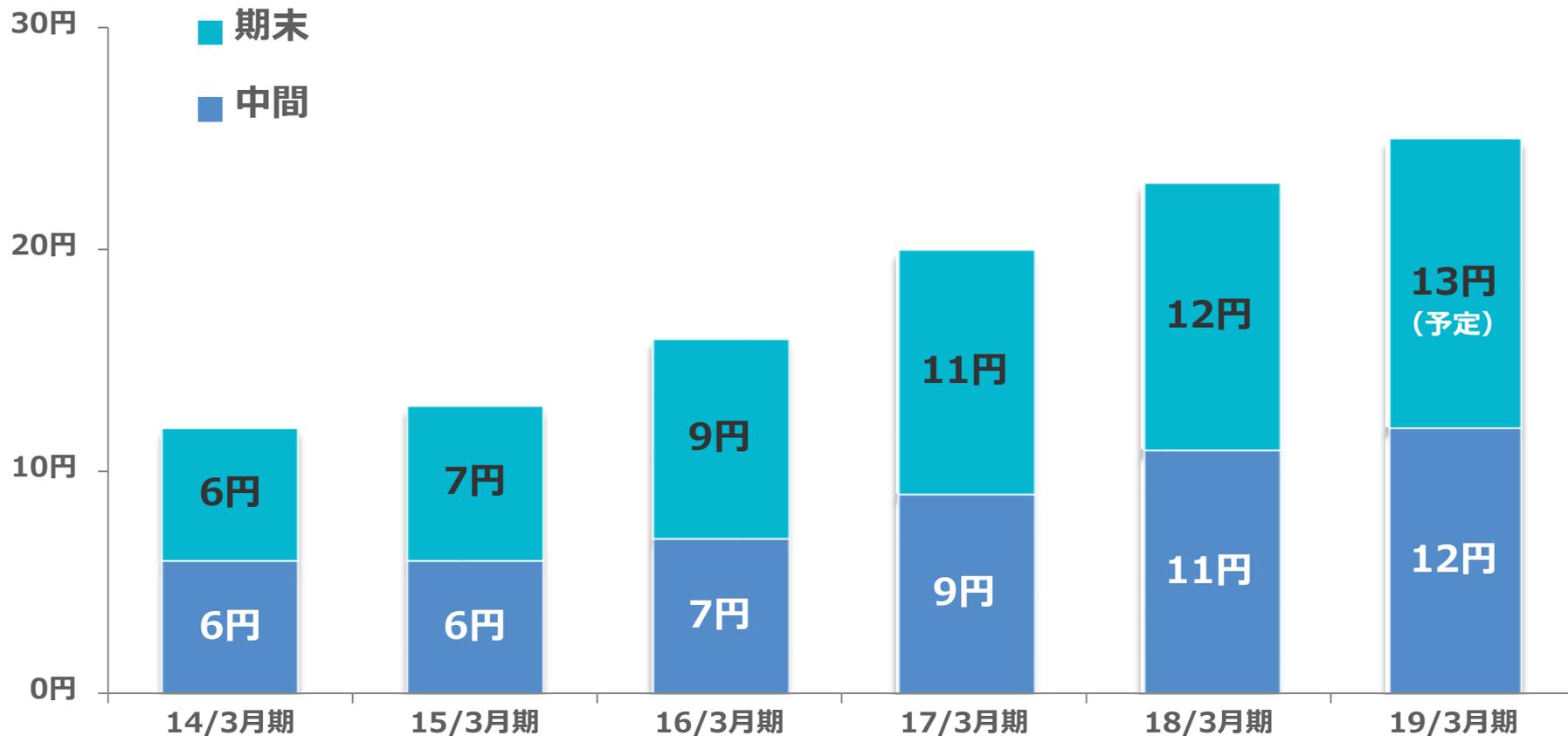
株主還元

Ortus Stage 2

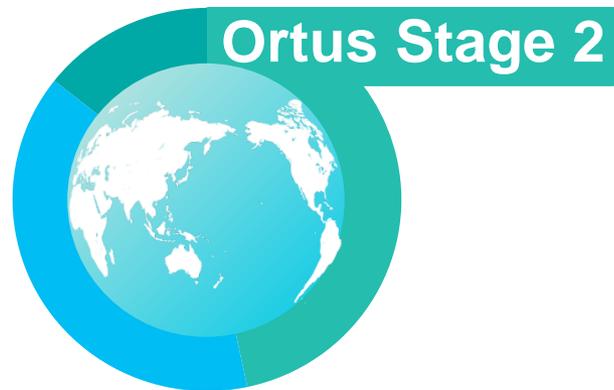


株主還元

安定的な配当を維持しつつ、業績に連動した配当政策を実施



ご清聴ありがとうございました。



注意事項

- 本資料は、証券取引上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本説明会および本資料には、将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しが記述されております。これらは現時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断・想定したものであり、実際の業績はさまざまなリスクや不確実性（経済動向、市場需要、為替レート、税制や諸制度などがございますが、これらに限りません）を含んでおります。
- このため、現時点での見込みとは異なる可能性がございますことをお含みおきいただき、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますよう、お願い致します。